POW
PROTECT OUR WINTERS.JP

2020 ANNUAL REPORT

2020年 年次報告書

Ayako Niki

私たちのミッション

OUR MISSION

アウトドアアクティビティに情熱を注ぎ、
そのフィールドやライフスタイルを気候変動から
守るために行動する仲間たちの力となる。

Kenjiro Matsuo

ビジョンとゴール

VISION&GOAL

VISION

2023年ビジョン

私たちの遊び場である自然のフィールドを気候危機から守るために、脱炭素社会を意識した選択と行動がスノーコミュニティのスタンダードになっている。また、脱炭素社会を実現するためには社会の仕組みを変える必要があること、そして一人ひとりにその変化をもたらす力があることを信じ、各地のコミュニティと協働しながら自治体や国に対して働きかけている。スノーコミュニティでのこうしたムーブメントはアウトドアコミュニティ全体に広がり、それぞれのフィールドを守るためにアクションが起こされている。

GOAL

2020年ゴール

1. **スノーコミュニティにおいてPOWの存在と活動内容が知れ渡り、スキーヤー /スノーボーダーが気候変動の問題解決に取り組んでいる**

2. **HAKUBA VALLEYで脱炭素型のスノーリゾートとしての先進的な取り組みが行われている**

3. **HAKUBA VALLEYの取り組みがモデルケースとなり、他のスノーリゾートや自治体に波及させていくために、各地の滑り手や企業との関係性が構築されている**

代表理事メッセージ

MESSAGE FROM OUR DIRECTOR

いつも私たちの活動に賛同し、支え、ともに行動してくださる全ての方々に心より感謝申し上げます。

POW JAPAN のミッションが、それまでの「スノーコミュニティーの情熱を気候変動問題の解決するムーブメントに変える」から、「アウトドアアクティビティに情熱を注ぎ、そのフィールドやライフスタイルを気候変動から守るために行動する仲間たちの力となる」という文言に変わってから一年が経ちました。

スノーコミュニティーに特化していた活動を、アウトドアというより広い範囲に広げ、社会に声を届けていくということは、私たちにとって新鮮で刺激的な変化でした。まだまだスタート地点に立っただけの状態ではありますが、少しずつ新しい仲間たちを意識し繋がっていくことで、私たちの視野は確実に広がり、自分たちのフィールドを見直すことに繋がっています。そして、知れば知るほどに、どのフィールドでも同じように危機感を覚え、その影響を感じている、或いはすでに影響を受けている、ということを知りました。そして彼（女）らが愛するものや守りたいものは、私たちのそれと地続きに同じで、私たちはいつでも繋がる事が出来ると感じています。自然を愛し、環境の変化をいち早く感じている私たちは、それを守る重要性を社会に伝えることが出来る、という思いは間違いなくみんなの中にあります。

そんな思いを持った仲間たちが、一歩踏み出してアクションする「力」となること。ときには、より大きなムーブメントとして社会に変革をもたらすために、仲間たちの力を集結させること、それがPOW JAPANの使命だと、実感しています。

ここからまた一年、フィールドと素晴らしいライフスタイルを共有する多くの仲間たちとさらに深いつながりを築き、ときに連携し、愛する環境を守っていく活動を応援していこうと思います。

代表理事

小松 吾郎 GORO KOMATSU

事務局長メッセージ

MESSAGE FROM OUR SECRETARY GENERAL

2019年にPOW JAPANがスタートし、これが2度目の年次報告書です。
たった2年ちょっとの間で、「気候変動」を取り巻く社会の動きが大きく変化しているのを感じます。

世界に目を向けると、アメリカでは温暖化対策に消極的だったトランプ氏からバイデン氏に大統領が代わり、気候問題解決にリーダーシップを発揮する姿勢が示されました。先日の気候サミットでも安全保障面で対立する中国やロシアを含む主要排出国の首脳が参加し、あらためて気候変動問題は人類共通の喫緊の課題と受け止められ、多くの国が新たな温室効果ガス削減目標を掲げました。日本においても、昨年10月の「2050年カーボンニュートラル」、気候サミットでの「2030年温室効果ガス46%削減」が宣言されたことで、自治体や企業の目標や計画はそれらを追随し、“脱炭素”の文字を新聞で見かけない日はないほどです。

また、わたしたちのコミュニティに目を向けても、滑り手の間で“温暖化”や“気候変動”のワードが飛び交うことも珍しくなくなり、雪が少なくなることへの危機感から、何かアクションを起こそうと動き出す仲間の輪は広がりつつあります。そんな滑り手の感覚に呼応するように、ウインタースポーツに関係する企業の取り組みも増え、その一つのカタチとしてのパートナー企業は現在30社にまで増えています。

POW JAPANが活動の軸を置いている長野県白馬エリアでは、白馬村や小谷村の「気候非常事態宣言」や、大町市、白馬村、小谷村の観光DMOであるHAKUBA VALLEY TOURISMによるSDGs宣言、スキー場による再生可能エネルギーの切り替え、など、気候変動を回避し、自然環境を守るための方針が続々と打ち出されています。これらの方針を日々の生活やビジネス、まちづくり、観光地計画に具現化していくための取組はあらゆるところで見受けられ、市民レベルでの勉強会も始まっています。先日の白馬村の村議会選挙では「環境」をキーワードに政策を掲げる候補者も目立ち、それを支持する村民の存在は希望を感じさせられるものでした。しかし、このような動きはこのエリアに限ったことではなく、全国各地で同様の動きは広まりつつあります。スノータウンを例に挙げると、野沢温泉や片品村のチャレンジにも期待していますし、ニセコ町のSDGs未来都市計画は一歩進んだ事例と言えます。

ポジティブな変化は確実に起きているし、この先も否応なしに進んでいきます。その時、自分は、自分の暮らす「まち」は、主体的に、前向きに進んでいけるでしょうか。住みたい世界を目的地として描き、そこに向かって自らの足で歩んでいく。その道の先に明るい未来は待っているように思います。

POW JAPANはそんな一歩の後押しとなれる存在でいられるよう、よりパワーアップした形で、アウトドア コミュニティの“冬を守る”取り組みを応援していきたいと思います。

事務局長
髙田翔太郎 SHOTARO TAKADA

活動における
3つの柱

仲間づくり

啓蒙・教育

脱炭素社会に向かうための取り組み

私たちのビジョンを実現し、愛する冬を未来につなぐためには、直面する問題とその解決策を理解する仲間とともに行動を起こし、脱炭素社会に向かって着実に歩みを進めることが必要です。POW JAPANはこれらの3つの柱を活動の中心に据え、ビジョンの実現を目指しています。

MOVEMENT BUILDING

仲間づくり

私たちのビジョンや活動に賛同し、ともにアクションを起こしてくれる仲間の輪は、スノーコミュニティーを超えて確実に広がっています。それは多くの人が、フィールドや暮らしの中で気候変動を肌で実感し、危機感と同時に冬や自然を「守りたい」という想いを抱いていることの裏返しかもしれません。

一人ひとりがアクションを起こし、声を上げることで、社会の変化をもたらす原動力となり得ることを実感した1年でもありました。実際にHAKUBA VALLEY内のスキー場に対して自然エネルギーへの転換を求める署名は全国から14,509通集まり、その後HAKUBA VALLEY TOURLISMは「SDGs宣言」とともに、スキー場の再生可能エネルギーへの切り替えなどを明記した中長期戦略を発表しています。こうした多くの人の思いや行動の積み重ねで、変化は確実に起きています。

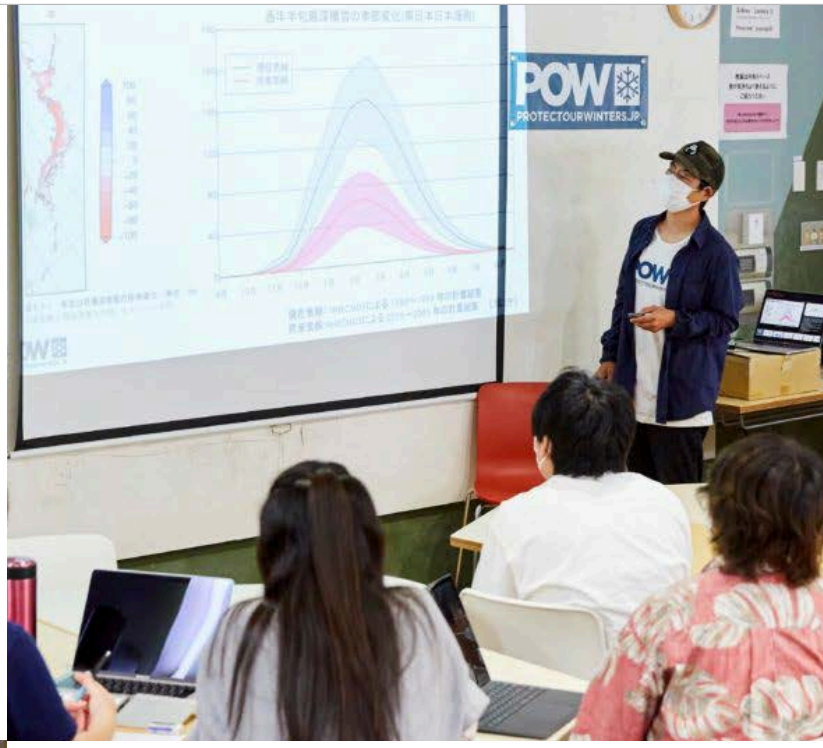
数値で振り返る2020年

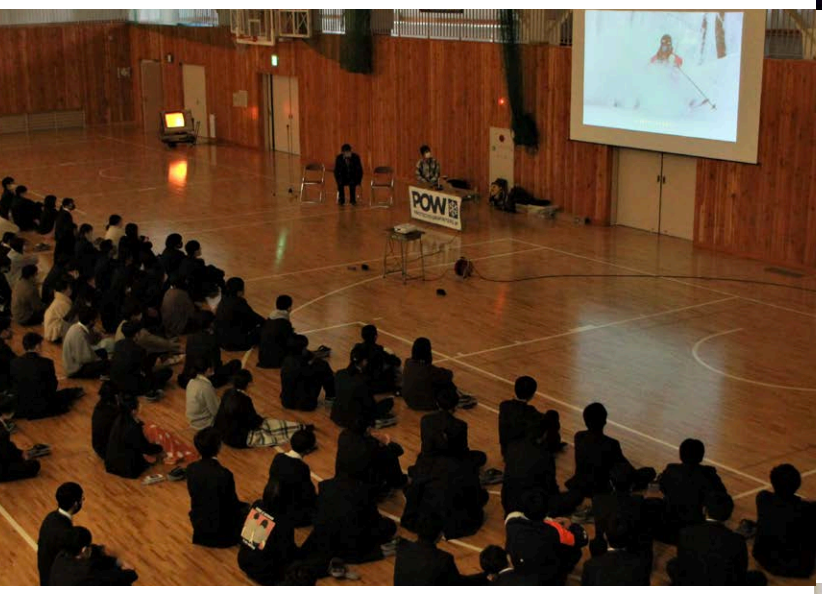
- パートナー **28**社
- ショッププログラム **75**店舗
- 個人サポーター **837**名
- アンバサダー **16**名
- SNSフォロワー **8385**フォロワー
- HAKUBA VALLEY 再エネ転換 応援署名 **14,509**通
- Change is POWer 参加数 **280**人
- 白馬エリア以外とのコミュニケーション **8**箇所
  （札幌市、ニセコ町、南魚沼市、片品村、郡上市、野沢温泉村、磐梯町、信濃町）

Tempei Takeuchi

啓蒙・教育

私たちが直面する気候変動に対して行動を起こすとき、気候変動の基本や影響、そして解決策を知り、理解することが「最初の一歩」です。学校や企業、オンラインなど様々な機会とツールを用いて、学びと行動の「種まき」をしてきました。

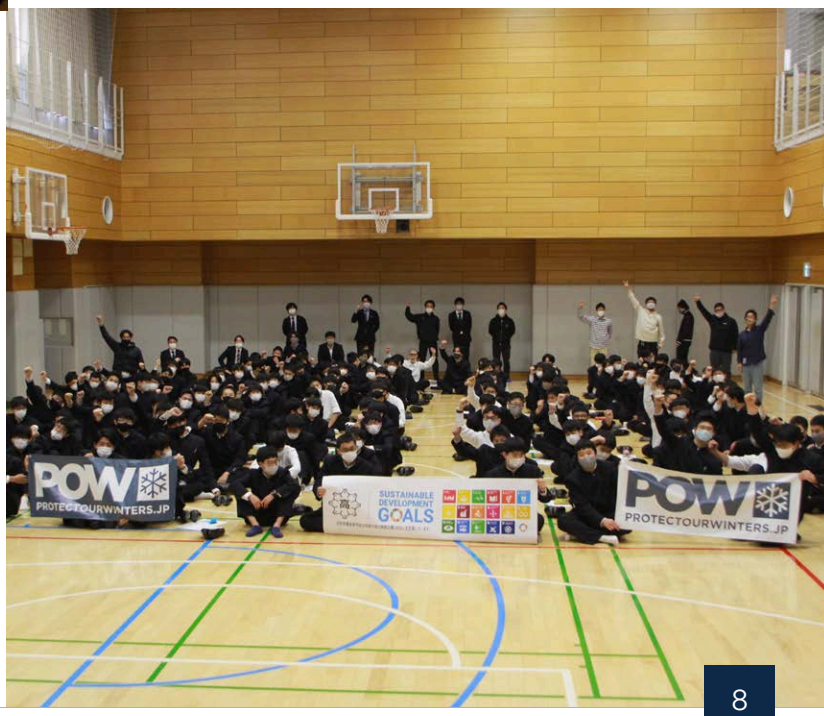




Hot Planet Cool Athletes

2020年、中高生を対象とした環境教育プログラム「Hot Planet Cool Athletes」がはじまり、初年度は3つの学校で開催、合計約400名の学生に伝えてきました。

このプログラムでは、世界の舞台で活躍してきたアスリート（POWアンバサダー）が学校に訪問し、地球温暖化のメカニズムや、気候変動や地球温暖化のメカニズムとリアル、そしてこの問題の解決に向けて私たちができる「行動」や「選択」を一緒に学び、考えます。
多くの時間を自然で過ごし、気候変動による自然環境の変化をより強く実感してきたアスリートだからこそ、この問題を「Cool」に語ることができる。そしてプログラム実施後、実際に「行動を起こしはじめた」「意識が変化した」学生さんが現れたというフィードバックから、アスリートの言葉が次世代を後押しする手応えを感じています。今後より多くの学校で開催できる機会を楽しみにしています。



POW JAPAN CHANNEL

2021年1月、Youtubeチャンネル「POW JAPAN CHANNEL」を開設しました。
動画を通して視聴者が「気候変動について知る」「問題解決に繋がる社会のあり方をイメージできる」そして、「行動のきっかけとなる」ことを目的としています。第一弾として公開した動画は、気象学者の江守正多さんと、POWアンバサダーの佐藤亜耶さん（プロスノーボーダー）のクロストークセッション。気候変動のメカニズムや、私たちがすぐにできるアクションについて、亜耶さんのストレートな質問に、江守さんがとってもわかりやすく解説してくれています。

第二弾の気象予報士の正木明さん x POW JAPAN代表理事の小松吾郎のクロストークセッション（2021年5月公開）に続き、ファンな要素を盛り込んだイベントフィルムや、再エネ現場の取材など、バラエティに富んだ動画を収録・公開予定です。

全国岩岳学生スキー大会

POWとして初めて、学生スキー大会にブースを出展。インターンシップとしてPOWの活動に関わってくれた武井さん（大学院生）とともに2-3月に開催された基礎／アルペン大会にお邪魔させていただき、多くの学生にPOWの活動や気候変動ついてお話させていただきました。競技に打ち込む選手たちも雪が減っていることを実感していて（奇しくもアルペンの部が開催された３月上旬は雪解けが進み、コースは茶色くなっていました）、私たちの活動に共感してくださる学生さんもいらっしゃいました。今後も、学生の皆さんとのタッチポイントを通じて、競技スキーの間にも「雪を守る」仲間の輪が広がっていくことを願います。

スキー場での気候変動講習会

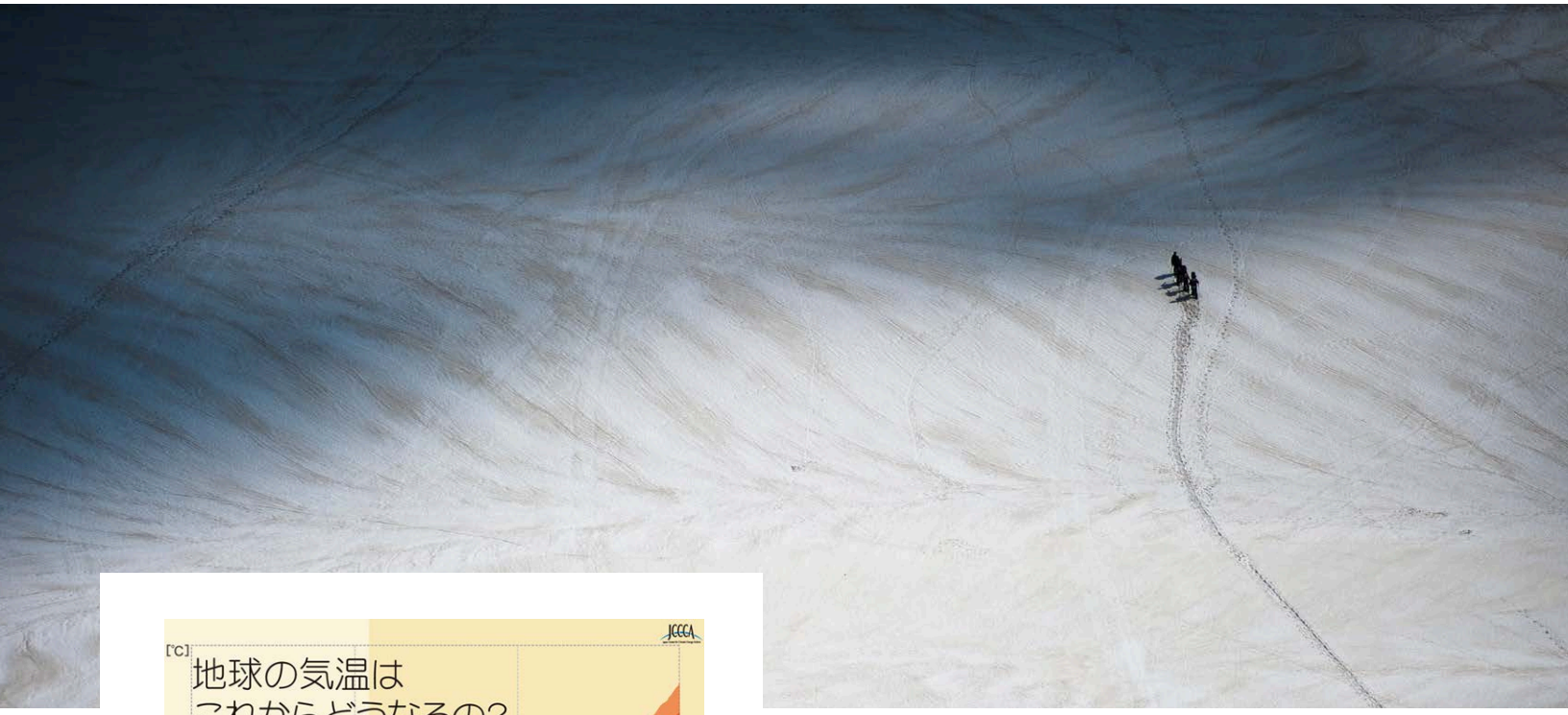
今年度は八方尾根スキー場、片品村スキー場連絡協議会、野沢温泉スキー場にて、気候変動講習会を実施させていただきました。気候変動に関連する内容のほか、海外や白馬エリアのスキー場での先進的な取り組みをご紹介させていただき、それぞれのスキー場の取り組みをサポートすることが目的です。スキー場で働く方々も多数参加してくださった八方尾根スキー場では、従業員からの自発的な取り組みの提案にも繋がっているそうです。

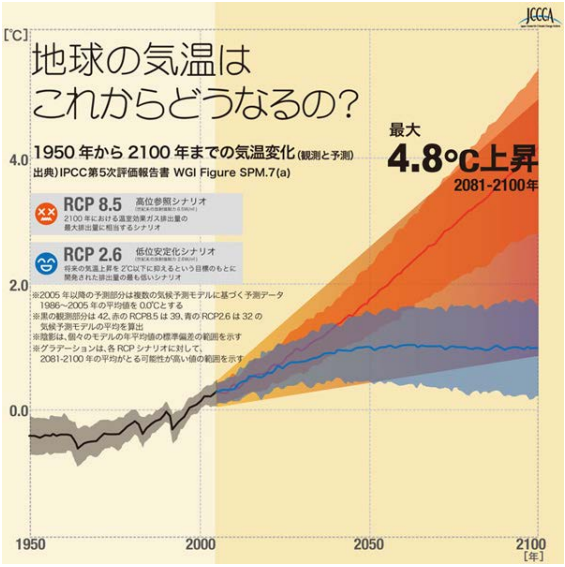
八方尾根スキー場

片品高原スキー場

野沢温泉スキー場説明会（村民向け）

脱炭素社会に向かうための歩み





出典:全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)「IPCC第5次評価報告書 特設ページ」1950年から2100年までの気温変化(観測と予測)グラフ

気温上昇を1.5℃よりも低く抑えるために、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする必要があります。

日本が排出している温室効果ガスの9割は「二酸化炭素(CO2)」、そのうち93%はエネルギーに起源しています。化石燃料(石炭・石油・天然ガス)の使用を大きく減らし、再生可能エネルギーへシフトしていくことが、温暖化を止めるために最も必要なアクションです。

個人でもできるアクションの提案に加え、Hakubaエリアでは全国から集まった滑り手の声がスキー場のパワーシフトを後押し。日本の気候変動対策に大きく関わる重要な政策が決定されようとしている重要なタイミングでは、気候変動問題に取り組む様々な環境団体や市民団体、企業とともに、POWはアウトドア コミュニティの声を政府に声を届けます。

Kenjiro Matsuo

Change is POWer

2020年7月、再生可能エネルギーへの切り替えを後押しするキャンペーン「Change is POWer ～選ぼう、自然のエネルギー」を実施しました。「電気」を再生可能エネルギーに切り替えることで、家庭から排出されるCO2の約半分を削減することができる、とても簡単で効果的なアクション。このキャンペーンに賛同してくださったパートナー企業の協力もあり、270人の方が再エネの切り替えを表明してくれました。

HAKUBA VALLEY TOURISM

『SDGs宣言』と スキー場との取り組み

全国から集まった14,500通の署名が後押しとなり、2020年10月末にHAKUBA VALLEY TOURISMは「SDGs宣言」を発表。その中期目標として「2025年までにエリア内全スキー場が電力の再生可能エネルギーへの切り替えを進めている」と掲げられています。
この目標に先駆けて、白馬八方尾根スキー場はリフト9 基（全体の約50%）、エイブル白馬五竜スキー場はナイターゲレンデで使用する電気を再生可能エネルギーをに切り替えました。また、白馬岩岳スノーフィールドもレストハウスなどの施設から優先的に再エネ切り替え を進めているほか、白馬さのさかでもセンターハウスで使用する電気を再エネに切り替えるなど、全国のスキー場に先駆けた取り組みが続々と始まっています。

あと4年、未来を守れるのは今 キャンペーン

日本のエネルギー政策の基本的な方向性を示す「エネルギー基本計画」の内容が2021年中に見直されます。この計画の内容は、気候危機の解決に大きく影響することから、様々な環境団体、市民団体、企業が立ち上がり、「あと4年、未来を守れるのは今」キャンペーンが2020年12月にスタート。その呼びかけ団体として、POW JAPANもこのキャンペーンに参加しています。「化石燃料も原発も使わない、持続可能な再エネ100%の気候・エネルギー政策」を求める署名は、3月の中間締め切りの時点で全国から14万通が集まっています。いくつかのオンスノーのイベントや大会でもこの署名について呼びかけていただき、スノーコミュニティからも政府に対して声を届けられたことを誇りに感じています。

POW JAPAN 紹介

STAFF

小松 吾郎 代表理事
髙田 翔太郎 事務局長
小松 由紀子
脊戸柳 武彦
鈴木 瞳

理事会

小松 吾郎 代表理事
玉井 太朗 理事
中村 陽子 理事
中島 力 理事
藤田 崇宏 監事

アンバサダー

大池 拓磨
鈴村 新
五明 淳
中山 二郎
山崎 恵太
中村 陽子
佐々木 大輔
玉井 太朗
鈴木 彩乃
中島 力
橋本 通代
佐藤 亜耶
河野 健児
河野 由貴子
小野塚 彩那
植木 鹿一

ボランティアクルー

Kenji Takeuchi
Yoshito Tanaka
Shaw Fukaya
Yusuke Miyoshi
Kenji Kato

SPETIAL THANKS

二木 亜矢子（デザイン）
伊藤 剛（動画撮影、編集）
辻井 隆行（クロストーク ファシリテーター）

PARTNERS

イベント
メディア掲載

出展、協力、登壇

grooves WORK TECHNOLOGY SUMMIT

Hot&Cool Moms Meeting（野沢温泉村）

Mountain Festival 出展（エイブル白馬五竜スキー場）

HAKUBAヤッホー !FESTIVAL ―白馬ノ映画（白馬岩岳マウンテンリゾート）

片品村スキー場連絡協議会講演～気候変動とスキー場の取り組み～（片品村スキー場）

雪乞CAMP（舞子スノーリゾート）

COOL CHOICE（札幌市）

遊びながら学ぼう!エコ磐梯～ Eco-Edutainment&Mountain clean in 磐梯山～（アルツ磐梯スキー場）

COOL CHOICE フォーラム・気候変動と自動車 ～白馬に雪は降るか～ 」（エイブル白馬五竜スキー場）

八方尾根スキー場 社員向け勉強会（白馬八方尾根スキー場）

気候変動を知るin野沢温泉～自然とともに生きる野沢温泉の雪と未来のために

BURTON x POW JAPAN 気候変動教育プログラム（野沢温泉スキー場）

Go To 脱炭素セミナー 全国都道府県巡り～長野県～

全国岩岳学生スキー大会

天神バンクドスラローム

メディア掲載

気候ネットワーク通信 第132号（2020年5月1日） https://www.kikonet.org/wp/wp-content/uploads/2020/05/NL132.pdf

EPIC SNOWBOARDING MAGAZINE [関東焚火會] EP1：POW ってなに!? 小松吾郎 / PROTECT OUR WINTERS https://youtu.be/BjLaD_JlTo4

アウトドアカルチャーのニュースサイト『Akimama』 POW JAPANが再エネへの切り替えを呼びかけ! Change is POWer キャンペーン 実施中（2020年7月3日掲載） https://www.a-kimama.com/tozan/2020/07/109372/

白馬村の魅力、伝えるサイト『アンテナ白馬』「【 Change is POWer ～選ぼう、自然エネルギー～】POW Japanが仕掛ける、エネ ルギーシフト促進キャンペーン」2020年7月22日掲載　https://antenna-hakuba.com/introduce/pow02/

FALLLINE 2021 VO L .1「あっけないほどカンタンだった自然エネルギー切り替え顛末記」

FALL LINE 2021 VOL.2「大きく動き始めた白馬SDGsの現在地」

HAKUBA VALLEY TOURISMによるSDG s宣言表明の記者会見の様子 が新聞各社に掲載

中日新聞、信濃毎日新聞、大糸タイムス、日本経済新聞（2020年10月30日）

白馬・小谷／地域情報誌「ラ・プラ―ス」(2020年12月20日）

札幌市／環境情報誌「エコチル」（2020年北海道版12月号）

自然公園専門誌「國立公園」 No.790「気候変動と国立公園を考える」（2021年01月号）

大糸タイムス「気候変動身近に感じて」 大町岳陽高 ＰＯＷ環境教育プログラム参加（2021年3月18日）
http://www.ohitotimes.co.jp/2021/202103/shimen210318.html

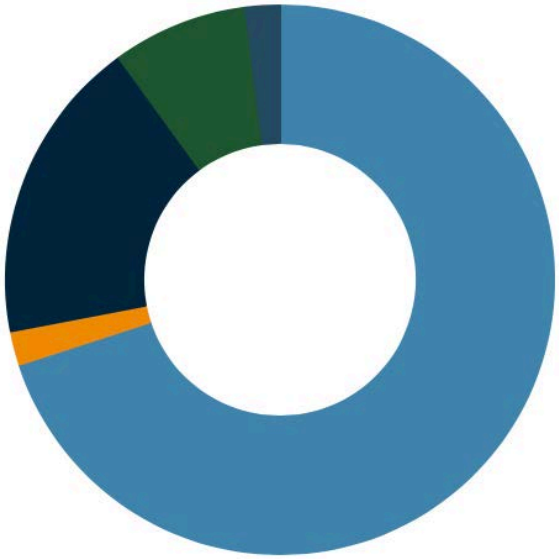
信濃毎日新聞「温暖化対策 若者よ動こう」（2021年3月24日 ）

2020年度 財務報告

収入

- 個人寄付 24.1%
- 企業パートナー 32.56%
- 助成金 32.55%
- イベント寄付 0.42%
- 収益事業 10.37%

支出



- 組織・運営 69.38%
- ファンドレイジング 2.46%
- マーケティング 18.27%
- プロジェクト 8.1%
- その他 1.79%

2020年度決算報告書はWEBサイト（https://protectourwinters.jp/aboutpow/）よりご覧いただけます。